



平成30年度

港区立青南幼稚園 経営計画

園長 新山 裕之

園のビジョン、私たちの使命

青南を みんなの 心のふるさとに 一心の根っこを育てようー

幹や枝葉が立派な木は、地面の下に根っこがしっかり育っています。青南幼稚園には、シンボルツリーである楓や桜をはじめ、多様な木々が幹太くたくましく枝葉を伸ばしています。その木々はまさに、将来の日本を背負って立つ子どもたちになぞらえられます。私たちは、子どもたちが個性豊かな立派な木々として育つために、その根っこを丁寧に育てます。身近な人や自然とのかかわりから生まれる遊びや生活を通して、子どもたち一人一人に、人への信頼感を基盤とした主体的に生きる構えを育てます。今ある環境を生かしたり、改善したりして多様な動きを引き出す環境や指導を具体的に工夫して、遊びや生活を通して多様な経験ができるようにします。ただし、これらは、じわじわと育ちますから、根気よく世話をする必要があります。

今年度は新しい幼稚園教育要領に則った保育を確実に実践していく年であり、我々はそれを中心になって進める責務があります。開園以来50年の歴史を重ね、地域や関係の皆さんに大事に見守られてきたことを基盤とし、さらに子どもたちにふさわしい保育を探っていきます。子どもたちはもちろん、教職員、保護者にとっても心に深く刻まれ、その後の人生を支える「心のふるさと」となるような日々を共に創り出していきます。誠実で向上心の高い教職員、子どもたちへの愛情と幼児教育への理解の深い保護者が集う青南幼稚園だからこそできる保育、地域の方々に愛され続ける青南幼稚園ならではの活動を展開します。オリンピック・パラリンピックに向けての気運も高まる中、心も体も動かして遊ぶ楽しさを知ることを、親子での体験を含め、計画的に実践を積み重ねていきます。

日本の幼稚園教育が始まって140年余り。制度や社会がどんなに変わろうとも、幼児教育の本質を守り、人として大切にすべき心の根っこを育て、時代の変化や多様性に対応できる人を育てる幼稚園づくりが私たちの使命です。

1 目指す幼稚園像

- (1) 子どもとの応答的な関係を大切にし、
共に創り出す遊びや生活を通して、子どもが伸びる幼稚園
- (2) 遊びや生活の充実のために、
環境のもつ教育的価値を踏まえて、東京で一番手入れの行き届いた幼稚園
- (3) 南青山という地域性や3階建て独立園という施設環境、職員組織、学級編成などの特徴を生かし、
地域や園の強みに注目した遊びや生活を展開し、みんなが誇りと思えるような幼稚園
- (4) 異学年・地域・青山アカデミーのかかわりを大切にし、
様々な人との多様なかかわりを通して、育ち合うことができる幼稚園
- (5) 子育てを楽しみ、子どもにとっての憧れとなるために、
大人自身が自ら考え、いきいきと行動し、笑顔が響き合う幼稚園



教育目標

よく考えて遊ぶ 友達をたくさんつくる じょうぶな体をつくる 青南の子

よく考えて遊ぶ … 自発性と試行錯誤を大事にした「豊かな遊び」

幼児期にふさわしい遊びが展開できる環境を整え、そこに幼児がかかわり生まれる遊びを共感的に受け止め、豊かな学びにつなげ、主体性を育む。

友達をたくさんつくる … 豊かな人間性につながる「人とのかかわり」

豊かな人間性につながる社会生活における望ましい習慣や態度、他人への思いやり、協同の精神や人権尊重の精神を育む。

じょうぶな体をつくる … 健康・体力につながる「生活習慣・運動」

健康体力につながる基本的な生活習慣や進んで運動しようとする態度を養う。

2 中期的目標と方策

(1) 子どもも大人も、安心して最高のパフォーマンスが発揮できる環境づくり（環境による教育）

- ① 3年保育が始まって7年目。学級数の増減が続き、3階までの園舎になり、さらに昨年6月から子育てサポート保育が始まるなど、ここ数年、園運営上の大きな変化が続いている。そのことを肯定的に受け止めつつ、園全体の効果的な利用について、充実した保育実践と安全管理の両面からの園運営システムの確立が最優先課題である。安全・安心な遊びや生活のための動線の確保と、物品や文書等の適正な管理システムと安全対策などを徹底する。それらを機能させることで、日々の指導や園務などの効率を高め、教職員の働き方改革を進め、最高のパフォーマンスを発揮できる基盤をつくり上げる。
- ② 子どもが自ら環境に働き掛け、主体的に遊びや生活を創り出していくことができるよう、使いやすく片付けやすい保育環境と豊かな自然環境をみんなで協力して整えていく。
- ③ 保護者が肩の力を抜いて、子育てや幼稚園生活を楽しみ、自己実現をしながら子どもの育ちを喜び合う仲間となるために、双方向の情報発信や連携を工夫する。

(2) 確かな保育理念と主体性を育てる理論と実践力を備えた教師集団づくり（教育は人なり）

- ① 担任だけでなく、多くの教職員が保育にかかわる環境の中で、全ての教職員が、子どもと教師との応答的なやり取りを大切にする構えと子どもの背にそっと手を添える援助とその理念を身に付ける。それぞれの役割を確実に果たすことで、遊びや生活を子どもたちと共に創り出して実践を推進する。
- ② 日々の子どものやり取りや職務の遂行を通して、人として教師としての基本を学び、保育という営みの魅力とやりがいを実感し、感性を磨き、謙虚に学び続ける教員としての基本姿勢を確立する。
- ③ 乳幼児期から青年期までの発達を学び、長いものさしで幼稚園教育を考える視点をもつ。

(3) 青南幼稚園ならではの質の高い教育の創造（地域の幼稚園）

- ① 南青山という独特な地理的文化的な地域性、緑豊かな園庭など恵まれた自然環境などを生かした豊かな遊びや生活が展開できるよう創意工夫し、青南ならではの魅力を生かした教材開発をし、教育内容の充実を図る。
- ② 季節の行事や自然とのかかわりを大切にする伝統を大切にしながら、大きく変わった実態にふさわしい教育課程を再編成していく。
- ③ 日常的な異学年交流や生き物とのかかわりなどを通して、相手の立場になって考えたり行動したりする思いやり、感謝や憧れの気持ちを育てる。また、行事などでの保護者や地域の方々との交流、保育園、小中学生など様々な人や物とのかかわりの機会を大事にし、心に残る体験が積み重ねられるようにする。



3 今年度の取り組み目標と方策

(1) 環境にかかわる取り組み（環境による教育）

- ① 保育室、園全体の醸し出す雰囲気、教師の服装や言動全てが環境として、幼児の育ちに大きな影響を及ぼすことを肝に銘じる。幼児と共に遊びや生活を創るためには、幼児と共に環境を整えることを徹底し、降園時には朝の状態に戻すことを基本とし、手入れの行き届いた環境を維持する。幼稚園教育の基本である環境による教育の重要性について、実践を通して体で理解し、指導の基本として確実に身に付ける。
- ② 3歳児が1階に2学級、4、5歳児が2階におり、3階もある園舎で、遊戯室で子育てサポート保育が始まった。今年度途中には長期間外壁工事も行われ、学級毎に登降園や移動の際に動線が複雑となる。園庭の使い方については、安全かつ豊かな学びが展開できる環境と指導の工夫(動的遊びと静的遊びの住み分けと共有)を具体的に試行し検証する、その実践と反省を生かし指導計画に位置付けていく。
- ③ 保育に関するパフォーマンスを上げるために、使いやすく片付けやすい収納スペースの管理体制を確立する。文書や財務(提出書類の締切や途中経過)などが共有できるような、進行管理の見える化を工夫し、確実に効率的な園務の執行を図る。
- ④ 遊びの充実や情操面の育ちを目指し、季節の変化を身近に感じることができる自然環境に恵まれていることを生かし、保護者の協力も得ながら、園庭の遊具や草花などを手入れし、豊かな環境と清潔さや安全性を保っていく。

(2) 教師の指導力向上に関する取り組み（教育は人なり）

- ① 子どもは、教職員の何気ない言葉や立ち居振る舞いの全てを吸収していく。「大事なことは小さなことの中に宿っている」ことを肝に銘じ、教師も子どもも日々の生活の中で繰り返す活動(席を離れる際に椅子を引く、靴を丁寧に履き替える、脱いだ靴を揃えるなど)を丁寧に言う習慣を身に付け、基本的な構え、「心の根っこ」を育てる。
- ② 遊びや幼児の心情の理解が保育の原点であることを再認識し、それを的確に捉え、表現する力量を高める。その上で、幼児の主体性を育てるために、子どもの背にそっと手を添える援助と集団を動かす際の指導法の基礎(遊びの指導などでの教師の立ち位置、全体指導の際の指示や発話、教材の選択や提示の仕方など)を身に付け、子どもと教師との応答的なやり取りを大切にしながら、個々の育ちと学級集団の育ちを重ね合わせる学級経営を進めていく。
- ③ そのことを踏まえ、園のビジョンと経営計画を理解し、自己申告やキャリアプランを活用し、1年間の具体的な目標と方策をもち、都の開発研究、研究員による保育記録などを活用し、確実な幼児理解に基づく保育実践を目指す。チャレンジ精神を忘れず自由な発想で仕事に取り組み、常に教師として人として学び続ける。
- ④ 園内研では、「楽しみながら体を動かす幼児を育てるために～多様な動きを引き出すための援助の工夫～」をテーマに研究を推進する。各自が積極的な教材開発をし、現在の環境や実態に合った活動や指導を探り、青南幼稚園の指導計画に研究成果を反映させていく。研究内容をまとめたり発表したりすることを通して、研究成果を確実に身に付け、キャリアに応じた指導力を育成する。
- ⑤ 学体連の足育研究推進園としての指定を受け、靴や足に関する実態(足型やサイズの計測や靴の脱ぎ履きの観察、アンケートによる意識調査)や正しい知識を知り、足元からの健康について教職員がその重要性を意識して、日々の指導について再確認し、よりよい実践に結び付ける。
- ⑥ 国公幼役員としての利点を生かし、園長からの情報提供を充実させ、「幼児教育じまう」の活用を含め、広い視野で保育に対して自分の意見をもち、実践できるように学び合い、意見交換する機会をもつ。学年会等での意見交換を充実させ、問題を一人で抱え込むことなく、みんなで解決策を探り、チームとして達成感を共有できるよう工夫する。
- ⑦ 伝えることと伝わることの差を自覚し、日々の保育、朝会での発言、文書の作成などにおいても、TPOに応じた正しい言葉遣い、分かりやすく相手の心に響く伝え方について学び、発信力を高める工夫をしていく。



(3) 青南幼稚園ならではの教育の充実（地域の幼稚園）

- ① 園長が率先して地域の環境や歴史を研究し、その魅力を教職員や保護者に発信し、「南青山探検隊」として園児と共に地域に出掛ける機会をつくる。昨年度の50周年を機に、教職員が地域を含めた幼稚園の歴史や地域の環境や自然物への関心を高め、それを生かした教材を開発していく。幼稚園にかかわる全ての人が、青南幼稚園や南青山という地域への愛着と誇りを高めていく。
*「なるほど！ザ青南」青南や南青山の歴史や魅力を再発見し、発信していく園だよりのコラム(園長+α)
- ② 青南小学校第2校庭での活動を「わくわくタイム」と称して位置付け、運動能力測定も実施する。それらをきっかけに、日々の遊びや生活の中で多様に体を動かす機会が増えるよう、保護者の関わりも含めた活動「カラダ動かし隊」、園庭の活用に関する実践研究と教材開発をし、体力の向上を図っていく。
- ③ 新幼稚園教育要領などを読み込み、みなとキッズなび、指導計画を基に、具体的な環境の設定や遊びの提案をし、場や内容などについて検証する。異学年交流の内容や進め方について検証を行い、その質を高め、指導計画に位置付け、年度末には更新していく。
- ④ プレイデー、オープンデー、青南まつりなど、親子で様々な体験を共有する。特に、その中で保護者参加型の活動を企画し、親子で心も体も動かす体験が共有できるようにする。学級懇談会や保護者会、茶話会などで保護者同士の情報交流の機会を増やし、子育ての悩みなどを話せる仲間づくりを支援する。ひよこ組や保護者会活動などを通して、地域の子育て仲間としての関係づくりを図り、安心して子育てに取り組めるようにする。
- ⑤ 園だよりの内容の充実を図り、ホームページでも発信し、日々の活動やその中での子育ての重要性を分かりやすく発信する。全体保護者会や行事等で直接話し合う機会を生かし、我が子だけでなく、全ての子どもを地域の子どもとして見守り、育てようとする大人の意識を積極的に醸成していく。